

# 環境問題と私

理学部 4年 岩岡 光輝

現在、環境問題については身近なゴミの問題から始まり、大気汚染、水質汚濁、森林の減少など様々な方面で議論されています。これらの問題は先進国ならびに発展途上国いずれの国でも共通に起きている問題です。日本では様々な法律をつくって様々な環境問題に対処していますが、なかなか成果を挙げられずにいます。このように環境問題に対する関心がさらに高まっています。私はこの時代になんとか化学の知識を使うことによって環境汚染の防止に携われたらと思っています。

私は小学校の頃に親から環境問題に関する本(漫画)を買ってもらったことから環境問題に興味を持ち始めました。小学校高学年のときに同じように環境問題に興味を持った同級生たちと雨のpHを試験薬で調べたり、自分の住んでいる地域の川の汚染状況を見てまわったりしました。その頃は、今のようにしっかり下水道が整備されていなかったせいもあり、かなり汚れた状態の河川などがみられました。これらの経験により一層環境問題に興味を持つことができました。そして、pH測定などの簡単な実験ではありましたが、化学の知識を通して環境問題にアプローチしていこうという気持ちが根付き始めました。

中学、高校と進むにつれて、しだいに化学に関する知識も深まっていって、それと同時に明確な目標を持つようになりました。それは環境計量士という資格を取得することでした。環境計量士は化学全般の知識はともかく、環境関連の法令など幅広い知識を必要とする資格です。合格率も例年20%前後と資格試験でも難しい部類に入るといえます。この試験に合格するための土台を築くために高校時代には化学に大きなウェイトをおいて勉強しました。そんなときに公害防止管理者試験という資格試験があることを聞きました。公害防止管理者とは様々な工場や事業所から排出される汚染物質の排出管理とその処理についての知識を持つと同時に分析化学の知識を必要とされる資格です。この公害防止管理者の試験と環境計量士の試験とは必要とされる知識の共通部分が大きいのでステップアップのために受けることを考えました。

大学に入ってからその目標に向かってより一層本腰をいれて取り組むようになりました。そして去年、実際に受験することになり、半年ほどかけて集中的に学習しましたがわずかに点数が及ばず残念ながら落ちてしまいました。実務経験3年程度の問題が出題されるので思ったよりも難しく感じました。さらに環境関連法令についてもかなり詳しいところまで問われたので苦戦しました。しかし、あきらめることなくリベンジするというので今年も受験するつもりです。さらに、この試験を合格した後は環境計量士の試験はもちろん最終的には環境部門の技術士の試験を受けるつもりです。やはり、進歩することをやめてしまうとそこで学ぶことの楽しさを失ってしまうのでさらに上を目指してステップアップしていくつもりです。

大学を卒業した後は、環境計量士の資格に直接関係のある環境計量業務をしている会社に就職したいと思っています。そしてそこで実務経験を積みながら知識を蓄え、会社での業務を通して環境汚染の防止に貢献していけたらと考えています。



写真5 分析実験1



写真2 榎野川（宮島町）



写真1 九田川支流（大塚川）



写真4 左が筆者



写真6 分析実験2



写真4 一の坂川（三和町）



写真3 榎野川（朝田）